



飯田市立病院ニュース

飯田市立病院・高松分院広報

編集・発行／飯田市立病院広報編集委員会 〒395-8502 長野県飯田市八幡町438番地
TEL●飯田(0265)21-1255(代) FAX●飯田(0265)21-1266 http://www.imh.jp.

「地震等広域災害発生時における 相互医療協力に関する協定」 締結される

豊橋市民病院（愛知県）（病床数九一〇床）から、近い将来発生が予想される東海地震により、広域災害として想定される膨大な医療需要を補完し、それぞれの地域住民に安全・安心な医療サービスを提供するための一助とするため、飯田市立病院と豊橋市民病院の間において、「地震等広域災害発生時における相互医療協力に関する協定」を締結したいとの申し出があり、去る三月二十九日に飯田市立病院において協定書の調印がなされました。

従来からの「三遠南信災害時相互応援協定」（平成八年六月二十七日付け）の中にも医療の応援について規定されていますが、今回の病院間の協定により、今まで以上に医療の応援範囲を明確にすることや、平常時から病院情報の共有、災害



訓練等の交流など相互協力をすすめることなど、具体的な効果が期待されます。

両病院とも自治体立の災害拠点病院です。昨年発生した新潟中越地震での医療提供体制の教訓を考慮して協定書締結に至った背景もあり、今後は実施段階における個別事項を相互に協議していく予定となっています。

【事務局】



豊橋市民病院の外観

豊橋市民病院の概要

一般病床 866床 結核病床 34床
感染症病床 10床

診療科目 26科

〔機関指定〕

災害拠点病院・臨床研修指定病院・救急病院
エイズ拠点病院 など

高松分院

Ⅱ 防災訓練 Ⅱ

高松分院・ゆうゆうでは二月十六日に今年度二回目の職員防災訓練を実施しました。

今回の防災訓練では夜間に災害が発生し、勤務している職員数が限られているという想定で実施をしました。当日は災害対策本部の立ち上げから始まり、入院患者様の搬送や各種伝達訓練等を実施しました。

いつ起こるか分からない災害に対していかなる局面でも迅速に対応できるよう、職員一人一人が行動を再確認し、課題や問題の発見と検討を行いました。



新任のご挨拶

地域に密着し、地域に信頼される病院作りを目指して

- 地域医療支援病院のさらなる充実強化
- 臨床研修指定病院として、さらなる飛躍
- 救急救命医療「ミニ救急センター」の取得
- 「地域がん診療拠点病院」の取得



院長 千賀 脩

本年四月一日に飯田市立病院院長を拝命し、非常に光栄であるとともに、その責任の重さに身が引き締まる思いです。前院長の宮川先生の在職中に、飯田市立病院は新病院の新築移転にはじまり、外国人修練病院、臨床研修指定病院、さらに昨年八月には地域医療支援病院などさまざまな資格を取得しました。昨年の二月からは電子カルテシステムが開始され、そして今年二月には日本医療機能評価機構の認定更新に伴う訪問審査が行われ、名実共に長野県を代表する

病院の一つになりました。また三月には災害拠点病院として豊橋市民病院と「地震等広域災害発生時における相互医療協力に関する協定」が結ばれました。今後の具体的事業としては、まず第一に昨年取得した地域医療支援病院のさらなる充実強化をめざし、開放型病床の本格的運用を行いたいと考えています。病診連携を今まで以上に密接にし、病院間の機能分担を行い、飯伊地区の医療のレベルアップを図りたいと思っています。

二番目に臨床研修指定病院として、当院がさらなる飛躍をめざすことです。臨床研修医制度も二年目に入り、今年もあらたに五人の研修医が当院で研修することになりました。昨年度の研修医五人が二年目の研修に入り、計十名がそれぞれのカリキュラムに沿って研修することになり、益々充実した研修内容が必要とな

つてきます。将来の医師不足にそなえて、多くの優秀な医師を確保するためにも、今後は三年目以降の後期研修を信州大学の研修方式を見据えながら充実させる必要があります。このことが病院の将来の運命を左右することになると考えます。

三番目に救急救命医療に関してはミニ救急センター取得を視野にいれながら、本格的始動にむけて体制の強化を行います。二〇〇〇年にヘリポートが設置され、ヘリによる重症患者の搬送の件数が増加しており、さらに二〇〇二年には救急室が拡充のため改修整備され救急体制も強化してきました。

四番目に、「地域がん診療拠点病院」の取得を目指したいと考えています。長野県には地域がん診療拠点病院に指定された病院はなく、かなりハードルが高いと思われる。PET検査などの最新医療機器を導入し、がんの早期発見、早期治療のため、治療成績の向上をめざしていく予定です。

最後に、今回機能評価の認定更新を受審しましたが、職員が一丸となり一つの目標に向かっていく姿勢は、今後の病院運営に対してかなり明るい材料につながったと思います。病院の組織体系をしっかりと構築し、医療事故のないよう心がけ、病院の基本理念にもありますように、「誠意・熱意・創意」をもって医療に従事し、地域に密着し、地域に信頼される病院作りをしたいと考えています。



認知症(痴呆)講演会

飯田市立病院主催の「認知症(痴呆)講演会」を3月5日(土)飯田勤労者福祉センターで行ないました。大阪府茨木市恒昭会藍野病院加齢医学精神医療センター副センター長の岸川雄介先生を講師に招いて、認知症(痴呆)の疑いがある場合の診断と治療、介護の工夫方法についての講演でした。医療や福祉関係者、認知症の方を抱える家族、一般市民など約350人が参加し、会場収容人数を遥かに上回る参加者で認知症(痴呆)についての関心の高さが伺えました。

講演の中で認知症(痴呆)は、症状の集まりであり病名ではない。身体疾患、精神疾患、脳自体の疾患が症状の原因になると具体的に分かりやすく説明され好評でした。 【地域医療部】



岸川先生(左)と満員の会場(下)

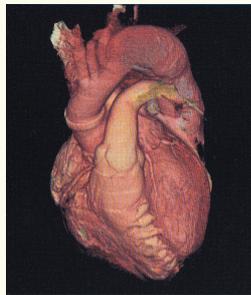


マルチスライスCTが導入されました

このたび古くなったCTを更新し、マルチスライスCTを導入しました。また、併せてもう一台のCTも改良を行ってマルチスライス化し、同時に2台の高性能CTが稼働することになりました。

CTはX線を用いて体の輪切りの写真を撮る装置で、これはマルチスライスCTでも同じ事です。しかし、従来のものが1回の撮影で1枚の写真を撮っていたのに対して、マルチスライスCTでは同時に複数の撮影をします。撮影枚数は機種によって異なり、開発当初は2枚でしたが、徐々に多数化し、今回当院では16列(同時に16枚撮影できる)と4列の装置を導入しています。

マルチスライス化することの利点は写真の解像度が上がる、つまり検査で得られる情報量が格段に増加することです。得られた情報をコンピュータ処理することでいろいろな方向の断層写真が見られます。



【高精細3D画像例】

また、血管や骨についても見たい部分を高精細3D表示することができるようになりました。特に心臓の血管は拍動があるため、これまではCTではほとんど評価できなかったのが良く分かるようになりました。

また、同じ内容の検査ならばこれまでよりも検査時間は短くなります。これまで予約検査ではかなりお待たせしていましたが、検査件数を増やすことにより依頼から検査までの期間短縮も期待しております。

患者様によりよい医療を提供するために、今後も良質で適正なCT検査を行うようスタッフ一同努力して参ります。

【放射線科】

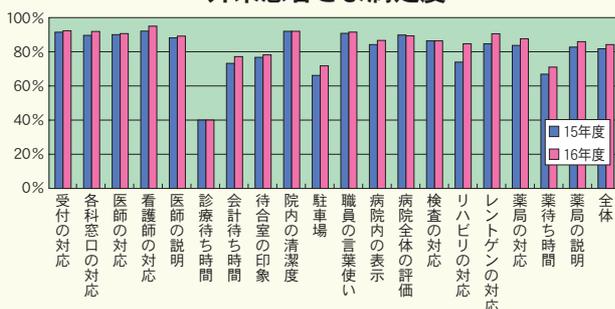
患者さま満足度調査結果を公表します 【医療サービス委員会】

調査期間 平成16年11月1日～11月30日

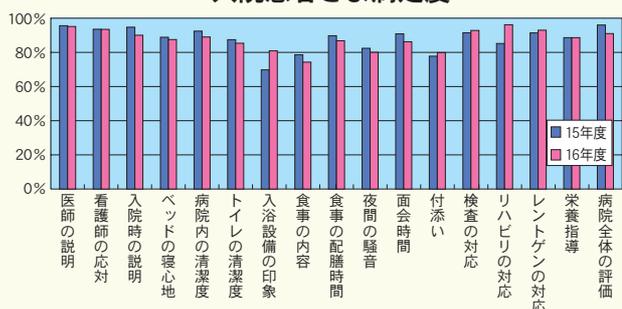
対象 外来804名 入院258名

満足度 本調査では「不満のないレベル」と回答された数を「満足度」として数値化しています。

外来患者さま満足度



入院患者さま満足度



シリーズ

その5

職場紹介

【食養科紹介】

食養科には、管理栄養士5名、調理員25名、事務員1名、計31名のスタッフが仕事をしています。入院患者さんの食事作りや、外来・入院の患者さんの栄養指導、栄養管理などを行なっています。また、健康管理面ではドックを受診された方の栄養指導も担当しています。

大きな柱である食事作りでは、平成16年4月から、一般食の選択メニューの回数をそれまでの週3回から週5回に増やし、“与えられた食事”ではなく、“選ぶ楽しみ”も味わっていただいています。



選択A食



選択B食

特別治療食を召し上がっている患者さんは治療目的の食事のため、選択メニューはありませんが、ひとりひとりの希望に添えるよう、分量、好き嫌い、主食・乳類・食器の選択等きめ細かな対応をさせて頂き、少しでも早い患者さんの回復を願って取り組んでいます。また、昨年度は、病棟の患者さんの栄養状態を把握し、栄養管理を受け持つNST(栄養サポートチーム)を立ち上げ、栄養不良状態にある患者さん達の栄養状態の改善に取り組む活動をスタートさせました。



これからも、地域の皆さんの治療と健康維持の為に力になれるよう、努力していきたいと思えます。(坂井)

診察後、黄色のファイル②番計算窓口へ出して頂いた時に、番号札をお渡しします。計算が出来ましたら、③番支払い窓口で番号をお呼びします。お支払いの時に番号のみでなく、お名前・住所で本人確認をし、間違いのないようにしていますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

【医事課】

会計時、番号でお呼びします

プライバシー保護のため、お支払いの時に名前ではなく番号でお呼びするようになります。

新任医師の紹介

平成17年1月～4月1日



内分泌外科
新宮 聖士
昭和62年卒業
平成17年4月1日着任
前勤務病院：信州大学医学部附属病院



呼吸器外科
牧内 明子
平成7年卒業
平成17年1月16日着任
前勤務病院：中信松本病院



歯科口腔外科
鎌田 孝広
平成11年卒業
平成17年1月1日着任
前勤務病院：信州大学医学部附属病院



呼吸器内科
塚平 晃弘
平成5年卒業
平成17年4月1日着任
前勤務病院：伊那中央病院



産婦人科
松原 直樹
平成9年卒業
平成17年4月1日着任
前勤務病院：昭和伊南総合病院



整形外科
山岡 清明
平成9年卒業
平成17年4月1日着任
前勤務病院：長野中央病院



整形外科
伊東 秀博
平成2年卒業
平成17年4月1日着任
前勤務病院：国立松本病院



耳鼻咽喉科
小林 克彦
平成11年卒業
平成17年4月1日着任
前勤務病院：信州大学医学部附属病院



小児科
才田 謙
平成15年卒業
平成17年4月1日着任
前勤務病院：信州大学医学部附属病院



形成外科
菅谷 文彦
平成14年卒業
平成17年4月1日着任
前勤務病院：伊那中央病院
地域医療救急センター



形成外科
深澤 大樹
平成12年卒業
平成17年4月1日着任
前勤務病院：慈泉会 相澤病院

新研修医



植村 一貴
平成17年卒業



草刈 麻衣
平成17年卒業



山崎 佐枝子
平成16年卒業
研修2年目



黒澤 優子
平成17年卒業



内藤 武彦
平成17年卒業



前田 知香
平成17年卒業

編集後記

景色の中にいくつもの色が加わる季節となりました。代表的なものといえば、さくら“でしょうか？各地ではさくら祭りが開催され賑わいをみせておりました。また、四月一日から個人情報保護法が施行され、当院では施行に伴い個人情報保護方針を定めました。今後安心しておかかり頂ける病院として基本理念を念頭におき精進して参りたいと思います。

【編集委員会 吉川徳典】